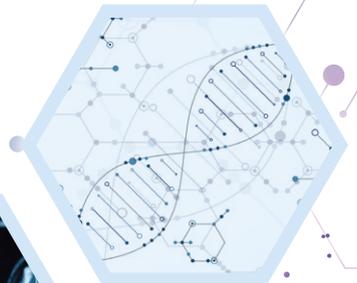




看護学領域



リハビリテーション学領域



病因・病態  
検査学領域



放射線学領域



臨床工学領域



公衆衛生学領域



医療科学領域

# GUNMA PAZ UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

## 群馬パース大学大学院

高度な医療の専門知識と実践能力を身に付けワンランク上の指導者を目指す方、さらに未来の医療を拓く、独創性・創造性に優れた研究能力を持つ研究者や教育者を目指す方のための大学院です。

## 群馬パース大学

Gunma PAZ University

## 群馬パース大学大学院

Gunma PAZ University Graduate school

保健科学研究科

保健科学専攻

### 博士前期課程

Master's Program

- 看護学領域 【学位：修士（看護学）】
- リハビリテーション学領域 【学位：修士（リハビリテーション学）】
- 病因・病態検査学領域 【学位：修士（医療技術学）】
- 放射線学領域 【学位：修士（医療技術学）】
- 臨床工学領域 【学位：修士（医療技術学）】
- 公衆衛生学領域 【学位：修士（公衆衛生学）】

【修業年限】 2年 ★長期履修制度あり ★特待生奨学金制度あり

【募集人員】 8名

### 博士後期課程

Doctor's Program

- 医療科学領域 【学位：博士（医療科学）】
- ・生体分子 ・病原体遺伝子 ・細胞機能
- ・生殖補助技術 ・生体機能

【修業年限】 3年 ★長期履修制度あり

【募集人員】 2名

## 学長メッセージ



大学院で学ぶことはいわば人生の登竜門をくぐることです。特に医学・医療・保健の分野で研究者、教育者、指導者を目指す人にとっては、研究能力を高め、論文を執筆して修士号・博士号を取得することは、専門家としての足場を確立する上で極めて有意義です。群馬パース大学では、許認可を得て、2009年に「博士前期課程」（修士号取得可能）、2018年に「博士後期課程」（博士号取得可能）を設置して、広く入学者を募っています。本学は教育・研究の両面での確かな指導を行い、看護学、リハビリテーション学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学、公衆衛生学を含む医療科学領域の諸分野で大きく活躍できる人材を育成します。皆さまのご入学を心よりお待ちしております。

学長 栗田 昌裕

## 保健科学研究科長メッセージ



本研究科では、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、医療現場でリーダーシップを発揮できる指導者や、独創性・創造性に優れた研究能力を持つ医療人(研究者、教育者等)の育成を目指しております。博士前期課程では、特徴ある教育カリキュラムにより2年間の教育、研究を通して自身の適性に合致した進路を選択することができます。また、博士後期課程では、基礎研究力の高い病因・病態検査学領域の研究内容や高度解析技術を発展させ、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能などの「医療科学」について、病気の予防や健康増進のための科学的エビデンスを構築しながら、国際的に通用する研究者、教育者を目指すことができます。常に“Science”を意識しながら、学問を追い求める皆様方の入学を心待ちにしております。

保健科学研究科長 藤田 清貴

## CONTENTS

Gunma PAZ  
University  
Graduate School  
2024

博士 <b>前期</b> 課程 .....	04
カリキュラム／履修モデル .....	06
博士 <b>後期</b> 課程 .....	08
カリキュラム／履修モデル .....	09
特別研究指導教員 .....	10
入試概要 .....	14



# 博士前期課程

【修業年限】2年 ★長期履修制度あり ★特待生奨学金制度あり  
【募集人員】8名

領域	学位
■ 看護学領域	修士(看護学)
■ リハビリテーション学領域	修士(リハビリテーション学)
■ 病因・病態検査学領域	修士(医療技術学)
■ 放射線学領域	修士(医療技術学)
■ 臨床工学領域	修士(医療技術学)
■ 公衆衛生学領域	修士(公衆衛生学)

群馬パース大学大学院博士前期課程は、保健科学を看護学、リハビリテーション学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学、公衆衛生学の立場から探究するとともに、その融合並びに関連する他の専門領域を含む地域保健医療システムを研究対象とし、人間の健康に関わる問題とその多面的要因に関わる探求において、各専門分野の知識・技術を取り入れた総合的アプローチが実践できる医療人(指導者)の育成を目指します。

## 教育目標

### 1. 高度な専門知識・能力を有する実践者の育成

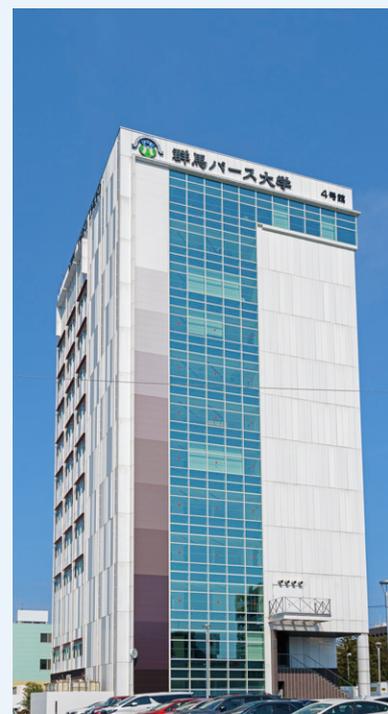
高度な倫理観と社会に対する深い洞察力、保健医療をとりまく社会システム、医学・医療の最新の知識を有し、根拠に基づいた高度な保健医療の実践を提供し、その結果を分析、蓄積するとともに、実践を研究、教育へと還元できる人材を育成します。

### 2. 保健医療分野においてリーダーシップを発揮する指導者の育成

保健医療システムを包括し、対象者のQOL向上のために資源を活用し、他職種との協働の中でリーダーシップを発揮し、ケアを推進できる人材を育成します。

### 3. 実践分野において研究能力・教育能力を発揮する実践者・指導者の育成

臨床現場において生じる実践上の問題を抽出・分析し、その解決を図るために研究を推進・指導できる人材を育成します。また、臨床現場での新卒者、現任者を対象とする卒業後教育、医療専門職養成機関での教育実践において、教育理論に基づいた教育方法を開発・構築し、実践できる人材を育成します。



## DIPLOMA POLICY

## ディプロマ・ポリシー

学位授与の方針

- 保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力を有する
- 保健医療分野及び公衆衛生学の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力を有する
- 先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力を有する
- 地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力を有する

## ADMISSION POLICY

## アドミッション・ポリシー

入学者受け入れの基本方針

- ▶▶▶ P14 でご確認ください。

## CURRICULUM POLICY

## カリキュラム・ポリシー

教育課程編成・実施の方針

## 1. 研究者としての基盤の涵養

研究能力の基盤を形成するために、共通科目に「研究方法特論」、「研究方法論Ⅰ～Ⅵ」、「応用英語」、「保健医療統計学特論」などの科目を設置する。又、専門の領域における研究実践の方法、すなわち研究テーマの設定から学位論文の完成までを段階を追って教育するために、専門科目に各領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を設置する。

## 2. 高度な実践力とリーダーシップの涵養

保健医療分野におけるリーダーに必要な、専門領域の枠を超えた総合的・学際的な教育を行うために、共通科目に「医療倫理学特論」、「医療運営・管理学特論」、「人体の構造と機能学特論」、「加齢医学特論」、「家族社会学特論」、「保健科学特別セミナー」などの科目を設置する。特に、「保健科学特別セミナー」は幅広い視野の育成という目的に加え、協働（チームアプローチ）の重要性に鑑み必修科目として設置する。

## 3. 専門領域における教育能力の涵養

教育機関での教育志向だけでなく、保健医療の様々な場面における教育活動を想定した医療専門領域における教育学の教育を行うために、共通科目に「教育学」を設け、さらに専門科目の「特論」、「演習」のなかで領域ごとに、より実践的な内容を盛り込む。

履修計画では、体系化された所属専門領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を基本に置く。並行して学ぶ共通科目は一部を除き、学習ニーズ、学習進度に合わせて年次にかかわらず柔軟に履修できるように配置する。また、家庭や職場など社会的事情により標準修業年限（2年）での修業が困難な場合に、標準修業年限を超えて履修可能な長期履修制度を設ける。

以上のように、少人数教育の利点を活かし、学習者の志向・ニーズに対応できる柔軟で特色のある大学院プログラムを提供する。

# 博士前期課程 カリキュラム

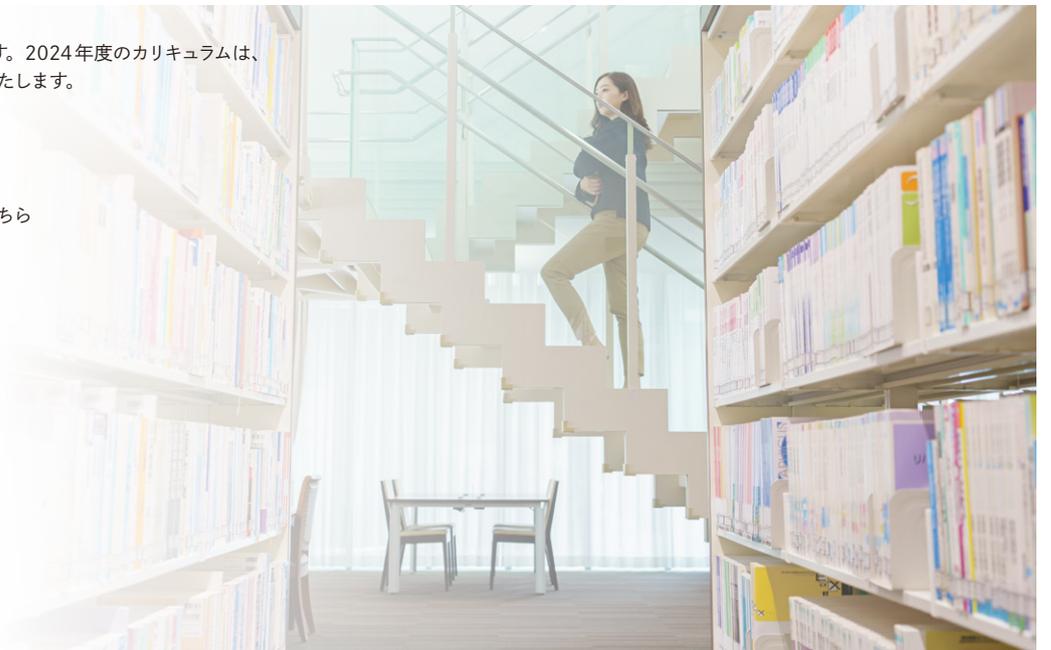
科目区分	授業科目名			
共通科目	医療倫理学特論	生殖補助医療技術学概論	研究方法論Ⅲ	データ統計解析学特論
	医療運営・管理学特論	教育学	研究方法論Ⅳ	情報アクセシビリティ学特論
	人体の構造と機能学特論	応用英語	研究方法論Ⅴ	身体活動支援教育学特論
	加齢医学特論	研究方法特論	研究方法論Ⅵ	医療情報科学特論
	保健医療統計学特論	研究方法論Ⅰ	保健科学特別セミナー	医療安全管理学特論
	家族社会学特論	研究方法論Ⅱ	公衆衛生学特論	

科目区分	授業科目名				
専門科目	看護学領域	基礎・実践看護学特論	ウィメンズヘルス・助産学演習	公衆衛生看護学特論	地域・在宅看護学特別研究
		基礎・実践看護学演習	発達看護学特論	公衆衛生看護学演習	
		基礎・実践看護学特別研究	発達看護学演習	在宅看護学特論	
		ウィメンズヘルス・助産学特論	母子看護学特別研究	在宅看護学演習	
	リハビリテーション学領域	総合理学療法学特論	理学療法学特別研究	総合作業療法学演習	コミュニケーション障害学特論
		総合理学療法学演習	総合作業療法学特論	作業療法学特別研究	
	病因・病態検査学領域	病態検査解析学	遺伝子情報検査学演習	生体分子情報検査学演習	生殖補助医療技術学演習
		病態免疫化学検査学特論	病態血液検査学特論	組織細胞検査技術学特論	生体機能検査学特論
		病態免疫化学検査学演習	病態血液検査学演習	組織細胞検査技術学演習	生体機能検査学演習
		遺伝子情報検査学特論	生体分子情報検査学特論	生殖補助医療技術学特論	病因・病態検査学特別研究
	放射線学領域	放射線教育学特論	放射線防護学演習	放射線学特別研究	
		放射線教育学演習	放射線利用学特論	放射線学特論	
放射線防護学特論		放射線利用学演習	放射線情報システム特論		
臨床工学領域	生体医工学特論	生体医工学演習	臨床工学特別研究		
公衆衛生学領域	疫学特論	産業保健学特論	実践リーダー育成演習 A	政策教育リーダー育成演習 B	
	感染症学特論	健康・医療政策特論	実践リーダー育成特論 B	政策教育リーダー育成特論 C	
	生物統計学特論	国際保健政策特論	実践リーダー育成演習 B	政策教育リーダー育成演習 C	
	健康行動科学特論	先端感染制御学特論	政策教育リーダー育成特論 A	公衆衛生学特別研究	
	ヘルスコミュニケーション特論	地域ケアシステム管理学特論	政策教育リーダー育成演習 A		
	環境保健学特論	実践リーダー育成特論 A	政策教育リーダー育成特論 B		

※ 上記は、2023年度のカリキュラムです。2024年度のカリキュラムは、確定次第本学ホームページに掲載いたします。



◀ ホームページはこちら



## 博士前期課程 履修モデル

## ◆ 看護学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	保健医療統計学特論	2
	共通	家族社会学特論	2
	共通	教育学	2
	共通	応用英語	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	研究方法論Ⅰ	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	公衆衛生看護学特論	2
	専門	公衆衛生看護学演習	2
	専門	在宅看護学特論	2
2年次	共通	医療倫理学特論	2
	専門	地域・在宅看護学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ リハビリテーション学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	人体の構造と機能学特論	2
	共通	応用英語	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	研究方法論Ⅱ	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	共通	身体活動支援教育学特論	2
	専門	総合理学療法学特論	2
	専門	総合理学療法学演習	2
	専門	総合作業療法学特論	2
	専門	コミュニケーション障害学特論	2
	2年次	共通	教育学
専門		理学療法学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 病因・病態検査学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	生殖補助医療技術学概論	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	研究方法論Ⅲ	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	病態検査解析学	2
	専門	病態免疫化学検査学特論	2
	専門	病態免疫化学検査学演習	2
	専門	遺伝子情報検査学特論	2
	専門	生殖補助医療技術学特論	2
2年次	共通	応用英語	2
	専門	病因・病態検査学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 放射線学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	教育学	2
	共通	応用英語	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	研究方法論Ⅳ	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	放射線教育学特論	2
	専門	放射線教育学演習	2
	専門	放射線学特論	2
	専門	放射線情報システム特論	2
2年次	共通	保健医療統計学特論	2
	専門	放射線学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 臨床工学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	人体の構造と機能学特論	2
	共通	保健医療統計学特論	2
	共通	教育学	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	研究方法論Ⅴ	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	共通	医療安全管理学特論	2
	専門	生体医工学特論	2
	専門	生体医工学演習	2
2年次	共通	医療運営・管理学特論	2
	専門	臨床工学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 公衆衛生学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	研究方法特論	1
	共通	研究方法論Ⅵ	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	疫学特論	2
	専門	生物統計学特論	2
	専門	健康行動科学特論	2
	専門	環境保健学特論	2
	専門	健康・医療政策特論	2
	専門	実践リーダー育成特論 A	2
	専門	実践リーダー育成演習 A	2
	2年次	共通	公衆衛生学特論
専門		公衆衛生学特別研究	10
単位合計		30 単位	

# 博士後期課程

【学 位】博士 (医療科学)

【修業年限】3年 ★長期履修制度あり

【募集人員】2名



## 医療科学領域

生体分子

病原体遺伝子

細胞機能

生殖補助技術

生体機能

群馬バース大学大学院博士後期課程は、前期課程で基礎研究力の高い病因・病態検査学領域の研究内容や高度解析技術を発展させ、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能などの「医療科学」に焦点をあて、科学的エビデンスを構築しながら、健康保持と疾病予防のための基礎研究、さらに疾病を早期に診断するための疾患バイオマーカーの検索・開発研究などが行えるような質の高い医療人(研究者、教育者等)の養成を目指します。

## 教育目標

大学院博士前期課程における教育・研究を通して養われた知識や技術による高度な専門能力を更に高め、医療科学領域において国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い研究を遂行、指導できる教育・研究者、及び医療現場の高度な専門技術者を育成することを目的とします。

### DIPLOMA POLICY

## ディプロマ・ポリシー

学位授与の方針

- 独創性・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備えた人材
- 医療・保健科学分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導ができる人材
- 医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究ができる人材
- 科学的エビデンスを構築しながら研究開発ができる人材

### ADMISSION POLICY

## アドミッション・ポリシー

入学者受け入れ方針

▶▶▶ P15 でご確認ください。

### CURRICULUM POLICY

## カリキュラム・ポリシー

教育課程編成・実施の方針

### 1. 高い倫理性と強い責任感、 課題遂行力の涵養

共通科目において、社会的理解を得るための生命倫理に則った研究デザインと倫理的行動能力を修得することを目的とした「生命研究倫理論」と、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究方法を選択できる能力を修得することを目的とした「医療科学研究法」の科目を設置する。

### 2. 創造性豊かな優れた研究・ 開発能力の涵養

専門科目において、科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目的とした「特講科目」と、各領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させるため、英文文献講読と教員との討論により、研究の評価・応用能力を養い、国際的な情報発信ができることを目的とした「演習科目」、さらに、医療科学における新たな知見を得るための研究を行い英文論文として公表できることを目的とした「特別研究」を設置する。

## 博士後期課程 カリキュラム

共通科目	専門科目	特別研究
■ 生命研究倫理論	<input type="checkbox"/> 特講Ⅰ（生体分子・病原体遺伝子）	<input type="checkbox"/> 特講Ⅲ（生体機能）
■ 医療科学研究法Ⅰ	<input type="checkbox"/> 演習Ⅰ（生体分子・病原体遺伝子）	<input type="checkbox"/> 演習Ⅲ（生体機能）
■ 医療科学研究法Ⅱ	<input type="checkbox"/> 特講Ⅱ（細胞機能・生殖補助技術）	■ 医療科学特別研究
■ 医療科学研究法Ⅲ	<input type="checkbox"/> 演習Ⅱ（細胞機能・生殖補助技術）	

※ 上記は、2023年度のカリキュラムです。2024年度のカリキュラムは、  
確定次第本学ホームページに掲載いたします。



◀ ホームページはこちら



## 博士後期課程 履修モデル

### CASE\_1 （3年間で履修する場合）

経歴	医療系大学を卒業後、検査医学系大学院修士課程を修了
論文テーマ	血小板の活性化に伴う血管構成細胞の動態に関する研究
修了後の役割	血液細胞学を専門として教育・研究活動を行う大学教員

#### ◆ 履修例

	授業科目	単 位	履修時期
共通科目	生命研究倫理論	2	1年次前期
	医療科学研究法Ⅱ	2	1年次前期
専門科目	特講Ⅱ（細胞機能・生殖補助技術）	2	1年次前期
	演習Ⅱ（細胞機能・生殖補助技術）	2	1年次後期
特別研究	医療科学特別研究	6	1～3年次

### CASE\_2 （長期履修：4年間で履修する場合）

経歴	医療機器・試薬企業の学術研究者
論文テーマ	ビリルビン測定試薬成分と反応する異常免疫グロブリンの構造解析と反応メカニズムに関する研究
修了後の役割	企業での異常反応阻止試薬の開発研究に携わるリーダー的指導者

#### ◆ 履修例

	授業科目	単 位	履修時期
共通科目	生命研究倫理論	2	1年次前期
	医療科学研究法Ⅰ	2	1年次前期
専門科目	特講Ⅰ（生体分子・病原体遺伝子）	2	2年次前期
	演習Ⅰ（生体分子・病原体遺伝子）	2	2年次後期
特別研究	医療科学特別研究	6	1～4年次

# 博士前期課程 特別研究指導教員

<b>齋藤 基</b> Saito Motoi	<b>看護学領域</b> / <b>地域・在宅看護学特別研究</b> 在宅看護学に関する研究は、自宅をはじめ長期入居施設等の「生活の場」において、疾患や障害を有し療養している対象者に対して、看護実践上の課題を研究課題として取り組みます。研究課題は、療養者・家族、訪問看護師、多職種連携、訪問看護事業所の運営に関する課題等の視点から設定し、研究を遂行します。
<b>中島 久美子</b> Nakajima Kumiko	<b>看護学領域</b> / <b>母子看護学特別研究</b> 少子化、妊娠・出産の高齢化、家族形態の多様化の現在、孤独な子育てによる産後うつや虐待を予防するためには夫婦の良好なパートナーシップが重要です。親への移行期における夫婦の親密性を高める教育プログラムの開発、不妊治療を受けて妊娠・出産した夫婦への心理的援助、母親意識・父親意識の発達と看護支援に関する研究課題について取り組みます。
<b>小林 亜由美</b> Kobayashi Ayumi	<b>看護学領域</b> / <b>地域・在宅看護学特別研究</b> 公衆衛生看護学に関する研究課題として、成人ならびに高齢者を対象とした保健活動、特に日常生活習慣と健康に関する評価や教育の方法、介護予防/介護保険サービスの評価とシステム構築に関する研究について指導します。また、感染症保健活動、障害者(児)保健活動、および在宅看護活動に関する研究について指導します。
<b>中下 富子</b> Nakashita Tomiko	<b>看護学領域</b> / <b>母子看護学特別研究</b> 小児看護学はあらゆる健康レベルの子どもと家族を対象としています。子ども一人ひとりの最高の健康状態の維持、成長発達を追及すべく、多様な健康課題の解決に向けて子どもや家族への直接的な支援、保健・教育・医療・福祉等専門職との協働・連携による間接的な支援に関する研究課題について取り組みます。
<b>早川 有子</b> Hayakawa Yuko	<b>看護学領域</b> / <b>母子看護学特別研究</b> 母性看護学・助産学に関する研究課題として、母子と感染症、母乳育児支援に関する課題、教育教材について、また、妊・産・褥婦および新生児のニーズの把握とその課題解決に向けて研究指導をします。具体的には、これらの予防と教育、ケアの実際および保健指導が evidence に基づき展開できるための研究課題に取り組みます。
<b>佐藤 満</b> Sato Mitsuru	<b>リハビリテーション学領域</b> / <b>理学療法学特別研究</b> / <b>地域理学療法学</b> 介護を要する高齢者の自立支援や介護予防に関連した転倒リスク評価の手法について、特に感覚機能に着目した方法論の効果について理解を深めます。また単に身体機能の維持改善の働きかけにとどまらず、役割の再獲得や近隣社会への参加を促す支援の方法論、およびその効果判定への理解を深めて、学術的な研究へと発展させます。
<b>高橋 正明</b> Takahashi Masaaki	<b>リハビリテーション学領域</b> / <b>理学療法学特別研究</b> / <b>運動学</b> 人の関節運動や基本動作を可能にする身体構造のバイオメカニクスについて学修を進めます。具体的には関節それぞれの構造と機能の特異性、骨の連鎖によって生み出される身体動作の特徴、ならびに抗重力姿勢でのバランス保持戦略等について、運動学と運動力学の視点から分析かつ説明がつけられる能力を到達目標としています。
<b>村田 和香</b> Murata Waka	<b>リハビリテーション学領域</b> / <b>作業療法学特別研究</b> / <b>作業療法理論</b> 作業を治療に用いてきた作業療法の実践の可視化、すなわち、論理的に説明し、実証的に明らかにすることを目的とした研究を目指します。人と環境、作業の相互作用、作業と健康の関連性、および、作業療法の効果判定の確立等について、説明することを目標としています。
<b>石井 良和</b> Ishii Yoshikazu	<b>リハビリテーション学領域</b> / <b>作業療法学特別研究</b> / <b>作業行動学</b> 人の作業には意志、習慣化、遂行能力といった個人的資質と環境が影響しますが、それらをシステム論的に理解することで疾患名にとらわれないアプローチが可能となります。具体的には人間作業モデルを理解し、柔軟に用いることを想定しています。そのため人間作業モデルに関連する諸概念、システム論、現象学などの理解をもとに研究課題に取り組みます。
<b>竹原 敦</b> Takehara Shun	<b>リハビリテーション学領域</b> / <b>作業療法学特別研究</b> / <b>作業療法モデル</b> 保健、医療、福祉、介護の研究課題の中から、人生における社会的役割や習慣の変化と健康、高齢者の社会参加の評価、認知症の人の行動・心理症状と社会適応、認知症の社会的認識の促進と家族支援、高齢者と認知症の人のウェルビーイング・モデルの構築、地域包括ケアシステムにおける評価と関与など臨床実践に関連する視点について研究に取り組みます。

<p><b>南 征吾</b> Minami Seigo</p>	<p>リハビリテーション学領域 作業療法学特別研究 作業療法実践モデル</p> <p>人の生活適応を視点にした医療福祉機器やICT機器の研究開発は、リハビリテーション技術の可能性をさらに高めます。人が生活する基盤は、今いる場所からはじまっています。病院および在宅を問わず、その人の生活適応における課題解決に資するリハプログラム開発、評価表開発、実践技術の知見の発信を行える研究の実践および指導を行います。</p>
<p><b>藤田 清貴</b> Fujita Kiyotaka</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 病態免疫化学検査学</p> <p>病態情報をより正確にキャッチするため、タンパク質の分離・分析法の技術および理論を学び、evidence に基づいた病態解析法を駆使した研究を行います。具体的には、各種電気泳動法などの分離・分析法を用い、異常タンパク質の構造解析などについて研究の実践および指導を行い病態との関連性を追求します。</p>
<p><b>松下 誠</b> Matsushita Makoto</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 生体分子情報検査学</p> <p>酵素検査はそのタンパク量を測定するのではなく、活性値として定量することで標準化がなされてきた経緯があります。しかし、酵素活性はアイソザイムの相違によって変動することから、本来の病態を反映しない異常検査データが出現することがあります。このようなアイソザイムの相違に伴う酵素検査の課題を解明・改善する研究を行います。</p>
<p><b>長田 誠</b> Osada Makoto</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 遺伝子情報検査学</p> <p>遺伝子異常はほとんどの疾患の病因に関与しており、それぞれの病態を解析するためには、適切な方法で遺伝子解析する事が重要です。最新の遺伝子測定法と病態解析のための各種オンラインデータベースの使用法を指導し、遺伝子解析における基礎的な検討と遺伝子異常の病態解析に関する研究を行います。</p>
<p><b>亀子 光明</b> Kameko Mitsuaki</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 生体分子情報検査学</p> <p>生体成分として含まれる微量タンパク質、尿中低分子タンパク質を対象として、病態解析に有用と思われる成分の物理化学的性状、臨床的意義および生理的変動について研究を行います。また、疾患との関連性の高いタンパク質については、プロテオーム解析を行い、その診断マーカーとしての有用性を検証する研究を行います。</p>
<p><b>高橋 克典</b> Takahashi Katsunori</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 病態免疫化学検査学</p> <p>サイトカインは、主に免疫細胞などから分泌される低分子蛋白で、細胞間情報伝達物質としての役割を担っています。博士前期課程では、免疫系培養細胞が分泌する各種サイトカインを指標とした創薬スクリーニングにより、合成化合物の中から免疫学的薬理作用を有する新薬候補を探索します。また、細胞内シグナル解析技術などを駆使し、候補化合物の作用メカニズムの解明を目指します。</p>
<p><b>岡山 香里</b> Okayama Kaori</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 組織細胞検査技術学</p> <p>子宮頸部上皮内病変におけるヒトパピローマウイルス (HPV) と細胞診検査に出現する異型細胞に関する研究を行います。特に、HPV に感染した異型細胞に着目し、Microdissection 法などを用いて HPV 遺伝子型を網羅的に解析します。これにより、上皮内病変に関連する細胞変化を捉え、子宮頸部上皮内病変の早期発見に貢献することを目指します。</p>
<p><b>木村 鮎子</b> Kimura Ayuko</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 生体分子情報検査学</p> <p>細胞が環境に適応し恒常性を維持するために、タンパク質はリン酸化などのさまざまな翻訳後修飾により絶えずその性質を変化させ、多様な機能を発現します。がんをはじめとするさまざまな疾患における翻訳後修飾異常に着目し、新たな診断マーカーや治療標的となる候補分子の網羅的な探索と検証を行います。</p>
<p><b>荒木 泰行</b> Araki Yasuyuki</p>	<p>病因・病態検査学領域 病因・病態検査学特別研究 生殖補助医療技術学</p> <p>体外受精や顕微授精に代表される生殖補助医療は、現在では一般的な治療として実施されています。配偶子の成熟、精子と卵子の受精、受精後の胚の培養、凍結保存、など精子や卵子を取り扱う技術は多岐に渡ります。生殖補助技術は常に進化していますので、関連技術の開発につながるような研究を目指します。</p>
<p><b>渡邊 浩</b> Watanabe Hiroshi</p>	<p>放射線学領域 放射線学特別研究 放射線防護学</p> <p>放射線や放射性物質を医療利用する放射線診療により患者さんが受ける医療被ばくの適正管理、医療従事者の職業被ばくの低減ならびにリスクコミュニケーション等の放射線防護学に関する研究を行います。また、患者さんの病態や臓器の機能を診断情報として提供できる核医学の特性と安全方策に関する研究を行います。</p>

<p><b>倉石 政彦</b> Kuraishi Masahiko</p>	<p><b>放射線学領域</b> / <b>放射線学特別研究</b> / <b>放射線教育学</b></p> <p>診療放射線技師の基礎教育および現任者教育に関する理論や研究方法を学び、質の高い診療放射線技術を提供するための教育や医療技術提供における課題について研究します。具体的には、対象に合わせた教育プログラムの開発、教育効果の測定尺度や診療放射線技術の評価尺度などの開発ならびにそれらの有効性に関する研究を行います。</p>
<p><b>酒井 健一</b> Sakai Kenichi</p>	<p><b>放射線学領域</b> / <b>放射線学特別研究</b> / <b>放射線利用学</b></p> <p>放射線は医療分野や生物分野だけでなく、化学分野など広い科学分野に利用されます。放射線利用学では、さまざまな分野に利用される放射線を技術体系的に整理・研究します。具体的には、植物の放射線ホルミシス効果や変異による品種・品質改良などへの応用を研究するなど、放射線の科学を学びます。</p>
<p><b>大瀧 和也</b> Ohama Kazuya</p>	<p><b>臨床工学領域</b> / <b>臨床工学特別研究</b> / <b>生体医工学</b></p> <p>高度先進医療における医療機器の研究開発は、これからの医療に大きく貢献します。企業と現場をつなぎ、現場からのアイデアを医療機器開発に取り入れ製品化します。また、人の体における相互作用を有する医用材料は生体反応との適合が必要です。人工臓器分野では、材料の適合性は必須であり、生体が異物反応を示さない材料の研究、開発に取り組みます。</p>
<p><b>花田 三四郎</b> Hanada Sanshiro</p>	<p><b>臨床工学領域</b> / <b>臨床工学特別研究</b> / <b>生体組織再生医工学</b></p> <p>ヒト細胞から生体臓器代替物を生体外で再構築する組織工学は、バイオ人工臓器の開発や再生医療に貢献する可能性があります。スフェロイド・オルガノイドといった細胞凝集体や再構成血管網の三次元培養技術を細胞生物学と医工学の両面から検討し、「かたち」と「機能」を持った三次元臓器を構築する方法論について研究します。</p>
<p><b>木村 博一</b> Kimura Hirokazu</p>	<p><b>公衆衛生学領域</b> / <b>公衆衛生学特別研究</b> / <b>感染症疫学・感染制御学</b></p> <p>先端病原体ゲノム解析法（シーケンス法およびメタゲノム解析法など）を基盤とした分子疫学解析法について学びます。また、病原体抗原遺伝子配列に、先駆的 <i>in silico</i> 解析を加え、感染症の原因究明、ワクチン開発のみならず、集団感染事例における感染源の特定などに関する解析手法論についても学びます。</p>
<p><b>木村 朗</b> Kimura Akira</p>	<p><b>公衆衛生学領域</b> / <b>公衆衛生学特別研究</b> / <b>臨床身体活動疫学</b></p> <p>個人・集団の生体機能や健康度に及ぼす身体活動と環境の複合要因の影響を解析し健康リスクを軽減するための身体活動定量技術・情報化・介入技術と疫学・生物統計手法を指導します。公衆衛生・理学療法・リハビリテーション等の社会臨床疫学課題を設定し研究遂行から論文作成、ヘルスコミュニケーションについて指導します。</p>
<p><b>矢島 正栄</b> Yajima Masae</p>	<p><b>公衆衛生学領域</b> / <b>公衆衛生学特別研究</b> / <b>公衆衛生看護学</b></p> <p>公衆衛生看護学に関する研究課題として、地域活動の展開に関する方法の開発や評価、保健計画の策定、遂行、および評価に関わる保健師の機能に関する研究について指導します。また、対象別地域支援のマネジメント、地域ケアシステムの構築、特に、母子保健、精神障害者保健福祉、発達障害者（児）支援、難病療養者の支援に関する研究について指導します。</p>
<p><b>星野 修平</b> Hoshino Syuhei</p>	<p><b>公衆衛生学領域</b> / <b>公衆衛生学特別研究</b> / <b>医療情報科学</b></p> <p>医療情報科学、健康医療福祉政策学、医療安全管理学、リスクマネジメント学などを基盤として、保健医療福祉における政策および教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法を学び、制度設計、政策立案をモデル化し、行政的知識、組織運営、環境整備などの実践的技術と計画立案と調整について研究指導を行います。</p>

## 博士後期課程 特別研究指導教員

<p><b>藤田 清貴</b> Fujita Kiyotaka</p>	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体分子</b></p> <p>電気泳動解析法などを駆使し、生体分子と結合する免疫グロブリンなどの異常タンパク質および病態を反映しない異常反応などについて、分子機能構造解析およびその発現メカニズムに関する研究の実践および指導を行います。さらに、異常免疫グロブリンと測定試薬成分との反応阻止試薬の開発研究を目指します。</p>
<p><b>木村 博一</b> Kimura Hirokazu</p>	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>病原体遺伝子</b></p> <p>細菌の薬剤耐性遺伝子、呼吸器ウイルス（RSウイルス・ヒトライノウイルスなど）および下痢症ウイルス（ノロウイルス・ロタウイルスなど）の遺伝学的解析を基盤とした研究指導を行います。また、ベイジアン・スカイラインプロット法によるウイルス遺伝子型別流行予測プログラムの開発に関する研究指導も行います。</p>

<b>木村 朗</b> Kimura Akira	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体機能</b></p> <p>人間の身体活動定量化の利活用方法を開発し、糖尿病や脳血管機能障害のある人や身体活動の支援を必要とする集団等における生体機能を良好に保つ複合要因システムの最適化を目指す研究能力を養います。公衆衛生・リハビリテーションにおける課題解決に資する知見の国際的発信を行いうる研究の実践および指導を行います。</p>
<b>松下 誠</b> Matsushita Makoto	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体分子</b></p> <p>アイソザイムを有する酵素はその活性値とタンパク量との関係を解析することは困難と考えられています。私たちはLDやCKのように異なるサブユニットの組み合わせから成る酵素はそのサブユニット間の相対活性が算出可能であることを明らかにしています。このように、酵素活性とそのタンパク量との関係を解析し、医療に貢献する研究を行います。</p>
<b>長田 誠</b> Osada Makoto	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>細胞機能</b></p> <p>血小板は血栓止血の重要な役割を担っており、活性化により多くの物質を放出します。糖尿病などの血管内にて血小板が活性化する病態において、血管構成細胞の解析を行うことは血管病態を解明する上でとても重要な課題です。血小板の活性化が血管構成細胞に与える影響を検討し、血管病態の解明につながる研究を行います。</p>
<b>亀子 光明</b> Kameko Mitsuaki	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体分子</b></p> <p>血清および尿中に出現する低分子タンパク質の多くは、生理的個体内変動に比べ、生理的個体内変動が小さいことが知られています。そのため、各種疾患に特異的なタンパク質の同定および分子解析とその測定系の確立、また、その生理的変動解析を行うことにより病態把握や予後判定への有用性を検証する研究を行います。</p>
<b>高橋 克典</b> Takahashi Katsunori	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体分子</b></p> <p>セクトーム解析とは、質量分析計を用いて細胞培養上清中のタンパク質を網羅的に解析する技術であり、バイオマーカーの探索などに応用されています。博士後期課程では、この最新技術を用いて人工合成化合物の添加前後で変動する各種タンパク質の発現量を比較解析し、薬理的に有意義なタンパク質を標的とする化合物の探索およびその作用メカニズムの解明を主な研究の目的とします。</p>
<b>岡山 香里</b> Okayama Kaori	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>病原体遺伝子</b></p> <p>子宮頸がん罹患率を減少させることは、我が国の重要な課題です。そこで、子宮頸部における一過性ヒトパピローマウイルス(HPV)感染および上皮内病変進展を細胞診検査で予測することを目指し、異型細胞とHPV遺伝子型の関連性を網羅解析します。さらに、HPVのゲノム解析を基盤とした分子病理学的研究の実践および指導を行います。</p>
<b>木村 鮎子</b> Kimura Ayuko	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体分子</b></p> <p>タンパク質の翻訳後修飾やプロセッシングなどによる構造変化は、多様な生体機能の発現や調節に関わっています。質量分析や電気泳動を用いたさまざまなタンパク質解析技術を駆使してこれらの変化を捉え、その機能や病態機構との関連を解明していくことで、さまざまな疾患の診断法や治療法の開発につながる研究を目指します。</p>
<b>荒木 泰行</b> Araki Yasuyuki	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生殖補助技術</b></p> <p>臨床や生殖関連研究の発展に不可欠ではあるにも関わらず、現状解決されていないテーマは沢山存在しています。配偶子の新しい体外培養方法、顕微授精に代わる受精技術等、特にマニピュレーションを用いた卵子や精子および胚を操作する技術や未成熟生殖細胞の体外成熟培養などの技術開発を目指します。</p>
<b>宗宮 真</b> Sohmiya Makoto	<p><b>医療科学領域</b> / <b>医療科学特別研究</b> / <b>生体機能</b></p> <p>神経変性疾患の代表的疾患であるパーキンソン病は、運動症状のほか、認知機能障害や自律神経症状等のさまざまな非運動症状を示します。こうした多様な症状を示す本疾患の特徴に焦点をあて、動作解析、神経心理学的検査、画像解析等の手法を用いて、発症と進行のメカニズムや治療へのアプローチに関する研究の実践および指導を行います。</p>



# 入試概要

- ※ 出願手続きの前に、希望する指導教員(未定の方は研究科長)と履修や研究に関する事前相談を面談、メール、電話等により、できるだけ行ってください。
- ※ 詳しくはHPまたは入学試験要項でご確認ください。

保健科学研究科 / 保健科学専攻

## 博士前期課程

ADMISSION POLICY

### アドミッション・ポリシー

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻(博士前期課程)では、以下のような学生を求めています。

- 高度な専門知識・能力を有し、実践の場を通して研究・教育に携わっていきたいと考えている人
- 保健医療分野において対象者のQOLの向上に寄与したいと考えている人
- 実践上の問題を抽出・分析し、その解決に努力を惜しまない人
- 教育理論に基づいた教育方法を開発構築し、卒後教育に活かそうと考えている人

### 出願資格

下記の出願資格のいずれかに該当する者。

#### ▶ 出願資格

- (1) 大学を卒業した者、又は2024年3月卒業見込みの者。
- (2) 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者、又は2024年3月31日までに授与される見込みの者。
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者、又は修了見込みの者。
- (4) 大学校及び専修学校の専門課程(出願する領域に関連する学科等)を修了した者で高度専門士の称号を授与された者、又は2024年3月31日までに授与見込みの者。
- (5) 入学年4月1日現在で22歳以上の者で、本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

注) 上記の出願資格(5)により受験を希望する場合は、出願に先立ち、「出願資格認定審査」を行います。詳しくはHP又は入学試験要項を確認してください。

### 募集人員

専攻	領域	募集人員
保健科学専攻 (博士前期課程)	看護学領域	8名
	リハビリテーション学領域	
	病因・病態検査学領域	
	放射線学領域	
	臨床工学領域	
	公衆衛生学領域	

### 入学試験

#### 試験科目

専門科目	60分	出願時に選択した領域の専門科目を受験
英語	60分	和英・英和辞書持込み可(電子辞書不可、付箋等は予め外しておくこと)
面接	30分程度	個別面接

### 入学検定料

30,000円

# 博士後期課程

## ADMISSION POLICY

### アドミッション・ポリシー

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻（博士後期課程）では、以下のような学生を求めています。

- 科学的・論理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある人
- 医療・保健科学分野の教育を行う大学、あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
- 医療現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、自立的な研究を行うことに意欲のある人
- 科学的エビデンスを構築しながら研究開発を行うことに意欲のある人

## 出願資格

下記の出願資格のいずれかに該当する者。

### ▶ 出願資格

- (1) 修士の学位を有する者、又は2024年3月31日までに取得見込みの者。
- (2) 大学改革支援・学位授与機構から修士の学位を授与された者、又は2024年3月31日までに授与される見込みの者。
- (3) 大学を卒業し、出願する専攻に該当する免許を取得後、5年以上の臨床経験を持ち、本学大学院において個別の出願資格審査により認められた者。
- (4) 外国において、修士の学位やこれに相当する学位を取得した者。
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者。
- (6) 文部科学大臣が指定した者。
- (7) 入学年4月1日現在で24歳以上の者で、本学大学院において出願資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。

注) 上記の出願資格(3)～(7)により受験を希望する場合は、出願に先立ち、「出願資格認定審査」を行います。詳しくはHP又は入学試験要項を確認してください。

## 募集人員

専攻	領域	募集人員
保健科学専攻 (博士後期課程)	医療科学領域	2名

## 入学試験

### 試験科目

学力 (英語)	90分	和英・英和辞書持込み可(電子辞書不可、付箋等は予め外しておくこと)
口述	30分程度	発表・質疑応答(パソコン持参) ※スマートフォン不可 ※修士論文あるいはこれまでの研究内容について発表(20分)を行った後、質疑応答(10分)を行う。
面接	20分程度	個別面接 ※入学後の研究計画等の口頭試問を行う。

## 入学検定料

30,000円

## 入学試験日程

入試区分	博士前期課程・博士後期課程 (同日実施)	
	I 期	II 期
出願期間	2023年8月17日(木) ～2023年8月31日(木)消印有効	2023年12月4日(月) ～2023年12月18日(月)消印有効
試験日	2023年9月8日(金)	2024年1月6日(土)
合格発表	2023年9月15日(金)	2024年1月12日(金)
入学手続き 期間	2023年9月19日(火) ～2023年9月29日(金)消印有効	2024年1月15日(月) ～2024年1月29日(月)消印有効

## 特待生選抜(博士前期課程)

学業優秀で明確な研究目的をもつ者が、経済的な理由により進学を断念することがないよう、学費の一部を給付(免除)し、その奨学に資するとともに、大学院における教育・研究水準の向上を図ることを目的として、入学試験の成績を審査し特待生を選抜します。

選抜対象者：入学試験I期受験者のうち、特待生選抜希望者

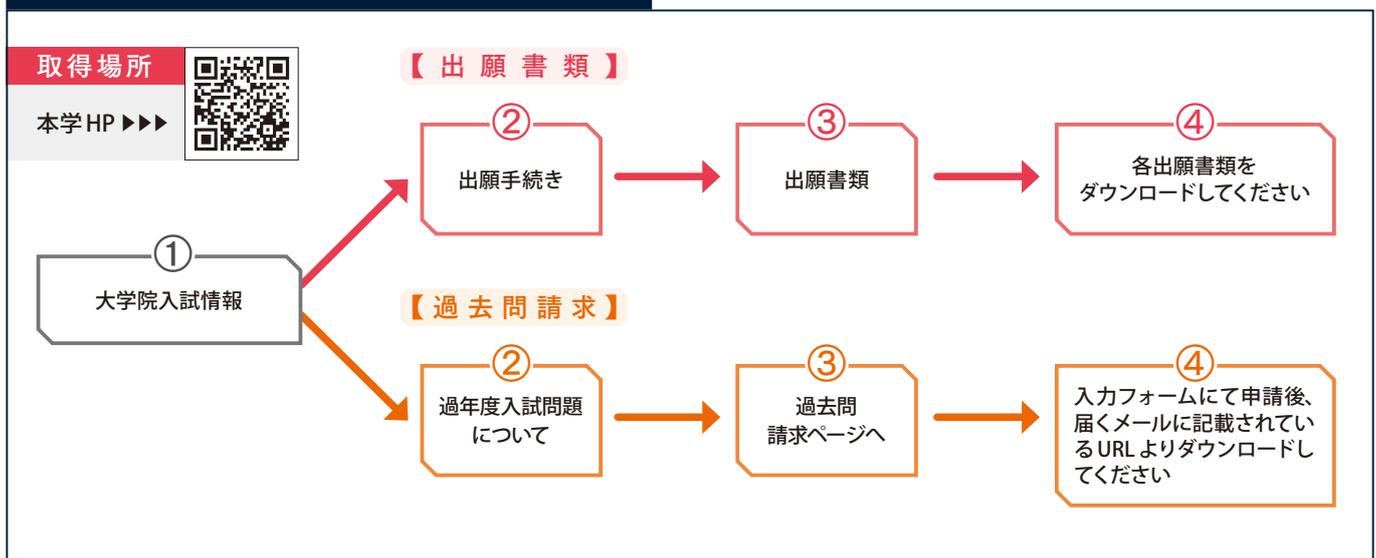
特待生 S

最大2年間の授業料等全額免除

特待生 A

最大2年間の授業料等後期分全額免除

## 出願書類・過去問の取得



# 初年度納入金

## 保健科学研究科／保健科学専攻 博士前期課程

初年度納入金		備考
学納金	入学金	100,000円 初年度のみ 入学手続き時納入
	年額	950,000円 前期+後期(2年次同額)
	授業料等 前期	475,000円 入学手続き時納入
	後期	475,000円 入学後、所定の期日までに納入
諸費用	42,750円	学生支援費、学生保険料等
入学手続き時納入金		617,750円 入学金+初年次前期授業料等+諸費用

※諸費用は予定であり、変更する場合があります。

### 【2年次以降について】

入学金を除く授業料等の前期分及び後期分を、本学からの通知後、所定の期日までに納入していただきます。

### 【同窓生奨学金】(所得基準あり)

本学の学部卒業生ならびに大学院博士前期課程修了生で、経済的理由により修学困難な者に、入学金相当額を給付(免除)します。※入学後申請

## 長期履修制度について

長期履修制度は、職業を有していること等による修学の困難さに対して、標準修業年限(博士前期課程2年、博士後期課程3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができるものです。

### ▶対象者

- (1)入学時において有職者で、業務のため授業及び研究指導を受ける時間に著しく制約を受ける者
- (2)家事、育児、出産、介護等の諸事情により授業及び研究指導を受ける時間に著しく制約を受ける者
- (3)その他本研究科が相当の事情があると認めたる者

※本制度を利用することが適切かどうか、研究指導希望教員と事前によくご相談ください。

※詳細はホームページでご確認ください。



## 保健科学研究科／保健科学専攻 博士後期課程

初年度納入金		備考
学納金	入学金	100,000円 初年度のみ 入学手続き時納入
	年額	700,000円 前期+後期(2、3年次同額)
	授業料等 前期	350,000円 入学手続き時納入
	後期	350,000円 入学後、所定の期日までに納入
諸費用	54,100円	学生支援費、学生保険料等
入学手続き時納入金		504,100円 入学金+初年次前期授業料等+諸費用

## ACCESS



問い合わせ先

群馬パース大学 入試広報課

〒370-0006 群馬県高崎市問屋町1-7-1

TEL.027-365-3370(入試広報課直通)

TEL.027-365-3366(代表)

FAX.027-365-3367

HPアドレス▼

www.paz.ac.jp/gs/

E-mail ▼

nyushi-koho@paz.ac.jp

